

## 第25回赤穂市民病院の医療を考える懇談会 議事録

1. 日時 令和3年12月23日(木) 14時59分～16時04分

2. 場所 赤穂市民病院 講義室

### 3. 出席者

(市民団体代表)	赤穂地区自治会連合会	会長	矢野 英樹
	赤穂市PTA連合会	会計	山田 浩
	赤穂市消費者協会	会計	谷山 典子
	赤穂労働者福祉協議会	副会長	後藤 暢宏
(保健医療関係者等)	赤穂市医師会	副会長	渡邊 節雄
	相生・赤穂市郡歯科医師会	副会長・赤穂支部長	赤井 高之
	赤相薬剤師会	理事	山本 義人
	関西福祉大学	事務局次長	末政 圭介
	学識経験者		三木 隆嗣

(赤穂市民病院) 藤井院長、白石副院長、高尾副院長、高原副院長、喜多川副院長兼看護部長、井上副看護部長、三木薬剤部長、木村診療放射線技師長、田淵臨床検査技師長、喜多事務局長、藤木経営企画担当課長、一二三介護老人保健施設事務課長、藤田医療課長、大川主事

### 4. 資料事前配布 有

### 5. 議事

院長より開会あいさつ

委員自己紹介

#### (1) 報告事項

① 市民病院改革プランについて  
病院関係者より説明

② 市民病院の現状と課題について  
院長より説明

#### (2) 協議事項

① 市民病院をより良くするための意見、方策について  
委員

経営管理者について市長が兼任しているが、責任は誰が取るのか、方針は誰が決めていくのか。

院長

赤穂市は35年以上事業管理者を置いておらず、市長が代行している。他の病院においては医療に精通した者が管理者を務める場合が多いため、経営検討委員会においても議論している。責任や方針についても、慎重に議論していく所存である。

委員

院内で不祥事が生じた際に、病院長含めた院内のトップが運営方針等について市民に対して説明する機会を設けることや給与の減額については検討しているか。

院長

病院の運営方針に関しては、市や議会、審議会の意見を含めて決定しているため、院内のみでは決められない部分が多く難しい。報酬については経営検討委員会に検討している。

委員

医療過誤があったこともあり、病院の安全性に不安がある。

院長

職員一同、医療安全と患者サービスの向上のため精進していく所存である。

委員

市民という名前を冠しているのに土日休診なのはいかがなものか。また、病院としての規模を狭めて何か一点に特化した病院を目指したほうが良いのではないか。

院長

土日診療について、市外に住む医師が多いこともあり人員の確保が難しく、また働き方改革による勤務時間の制限があるため、難しい。規模については、中央病院と連携できる部分については縮小したいと考えている。

委員

ジェネリック薬品の不祥事により、薬剤の調達が難しい状態にある。供給等が不安定になると考えられるため、ご協力をお願いしたい。

病院関係者

市民病院としても状況を把握しており、供給が不安定となる状況があと数年は続くことを認識している。

委員

若い人からよく、産婦人科が少ないとの意見を聞くが、どうにかならないか。

院長

医師の確保が厳しい状況であるため、産婦人科については中央病院をお願いしたい。

委員

介護やケアに関して、何か心がけていることはあるか。

病院関係者

現在、65歳以上の入院患者が8割を超えており、そのほとんどが介護を必要としている。かかりつけ医やケアマネージャーと協力し、なるべく自宅に帰れるように工夫している。また、看護部内でも介護についての理解が深まるような教育を進めている。

委員

非常勤しかいないため、他院に行ってほしいと言われたが、どうか。

院長

すべて常勤医のみで対応することは困難であり、市民病院と中央病院のどちらかで常

勤医が対応できるように経営検討委員会でも議論中である。

委員

病院の方針として、どこに重点を置いて経営していくのか。

院長

大幅な設備投資が行えない都合上、他市の病院との住み分けが重要になると考えている。2.5次救急までは市民病院で、3次救急については姫路市などに対応していただき、経過観察は再度市民病院にて対応する「後方病院」的な立ち位置を維持したいと考えている。

委員

配布資料によると、最重点項目の5/6が○となっており、経営が改善傾向にあるように読み取れるが、どうか。

病院関係者

公立病院として必要となる項目を最重点項目としており、それらを達成できる環境を整備できていれば○としている。経営改善に向けてはさらなる努力を要すると認識している。

委員

市民病院は絶対に必要な病院ですので、経営危機を乗り切って生き残ってほしい。

院長

様々な方法を模索しながら努力を続けていきたい。

副院長

私たち職員は患者の皆様へ医療看護を提供するために日々努力していることから、新聞報道や経営不振によって市民病院に対する信頼が根本から覆されるのは悲しく思う。また、休日対応についての要望の声を多くいただいている。今年度、休日乳がん検診の実施日を増やしたように、市民の声に答えられる活動を積極的に行っていきたいと考えている。

副院長

来年度は責任の所在が明確となるような組織にしたいと考えている。救急については状況により対応不可能な場合もあると思うが、全科対応する心意気で挑みたい。土曜診療実施については、時差出勤を検討している。医療安全については、職員一丸となって努力したい。

副院長

経営形態については、検討委員会にて議論をしている。近日中には大胆な改革を実施していく予定である。

副院長より閉会あいさつ